

令和5年度 大阪学院大学高等学校 学校評価

1 めざす学校像

《教育方針》

本校は、開校以来、学校法人大阪学院大学の建学の精神である『教育と学術の研究を通じ、広く一般社会に貢献し、視野の広い実践的な人材の育成』を理念として、将来、希望する高度な専門分野へ生徒を導くために、高校時代に身につけておかなければならない「現代社会に必要な基礎学力の習得」に主眼をおいた実践的な教育を行うとともに、人格の基礎をつくるしつけと情操教育に加え、一人ひとりの個性や能力を尊重し、豊かな人間力を素養とした教育を目指している。

《特色》

本校は、「明朗・努力・誠実」の校訓のもとに、普通科に「普通」「国際」「特進」「スポーツ科学」の4コースを設け、生徒の自立と自律を育み、一人ひとりの自己実現に力を注いでいる。

本校の大きな特色は、大学院を擁する7学部8学科からなる大阪学院大学と大阪学院大学短期大学部（1学科）、2つの専門学校（関西経理専門学校、関西医科専門学校）で構成されているASTカレッジを併設しており、幅広く社会に対応できる進路が保証されていることである。そして、決して他校ではまねることができない高大7年一貫教育（短期大学部は5年）、ASTカレッジとの5、6年一貫教育により、在学中の良き友人関係はもちろんのこと、卒業後も仕事上でつながりを持ち、お互い助け合って、活動の場を広げている卒業生が多く、本校の大きな強みとなっている。

また、高大7年一貫教育（短期大学部5年）では、高校2年生から併設大学の授業が受けられ、高校卒業までに大学の単位が先取りできるという大きな特色がある。これらの強みを活かして次のような取り組みを行っている。

【教学面】

総合学習の一環として探究学習に取り組んでいる。より実践的な教育効果を得るために、施設の利用や講師をお招きし、本校の大きな特徴である大阪学院大学、ASTカレッジ専門学校との協働を行い、生徒のキャリアデザイン構築に取り組んでいる。

各教科において受動的学習環境からの脱却を図るため、ICT（タブレット）をフルに活用し、より能動的な学習の提供に努めている。

【生活面】

2020（令和2）年4月新校舎移転を機に、朝のショートホームルームを廃止し、校舎に設置されている複数のサイネージや手持ちのタブレットを介して諸連絡を伝えるようにしている。このことにより、生徒自らが積極的に情報収集に努めなくてはならないことから「自己責任と的確な判断力」を養うことが期待できる。

【学校活動】

新型コロナウイルス感染症も5類へ移行となったが、依然として感染者の終息へ繋がっていないことを鑑み、本校では1ヶ月に1回行われる労働安全衛生委員会で学校医の意見を教職員や生徒たちに伝達し、基本的な感染予防対策を徹底的に講じた。その結果、学校行事等に大きな影響はなく順調に進めることが出来た。教学面では受動的な学びから能動的な学びへの脱却を進めている。また、全学年ICT（タブレット）を活用して学習効果の効率化を図っている。課外活動面では男子バスケットボール、日本拳法、男女ゴルフ、チアリーダーの各クラブが全国大会に出場し、サッカー部はプリンスリーグ関西2部で活躍している。これら現役の生徒たちや卒業生たちの活躍を職員朝礼で紹介し、生徒たちにも伝達している。また、全国大会出場までには至らないクラブ（近畿大会出場等）や文化部で成果をあげているクラブも数多くある。本校では生徒の活躍を教職員、スタッフ、生徒たちみんなで応援することで「愛校心と連帯感、一体感」を育むことが出来ると考えている。

2 中期的目標

1 学習指導について

- (1) 始業時間までに授業準備を完了させる。
- (2) 主体的な学びに取り組めるよう促す。
- (3) 基礎学力の定着と向上を目指す。
- (4) 成績不良者、低学力者などに対する指導を徹底する。

2 生活指導について

- (1) 遅刻者を減少させる。
- (2) 携帯電話の使用マナーの向上に努める。
- (3) 処分者の減少に努める。
- (4) 登下校のマナー指導に努める。

3 進路指導について

- (1) 基礎学力を向上させる。
- (2) 高大接続を充実させる。
- (3) キャリア教育の推進・充実を目指す。

4 人権教育について

- (1) 各学年別に学外講師を招き、講演会を実施する。
- (2) 全校生徒に人権に関連した映画鑑賞を実施する。

5 保健について

- (1) 生徒の適切な保健室利用の管理をする。
- (2) 「保健だより」の定期的発行と掲示等をする。
- (3) 感染症予防対策の実施をする。

【自己評価アンケートの結果と分析】

自己評価アンケートの結果と分析
教員アンケート [令和6年2月実施分]

○教職員アンケート

「自己（授業）評価」 令和6年2月実施

全教員に対し、別紙24項目について無記名による回答として実施した。〔有効回答数は81名〕

※アンケート結果については、別紙にて報告する。

自己（授業）評価の考察を行うにあたり、回答の中で「全くその通り」「どちらかと言えばその通り」の回答を肯定的評価として考えると、全24項目中11項目で肯定的評価が80%を超えている。

特に「4. 授業にはいつも十分な準備をしたうえで臨んでいる。」「5. 生徒が学ぶ力や考える力が得られるように、授業を工夫している。」「8. 生徒の理解を促すように、発問や板書を工夫している。」「10. 授業内容に関する生徒の質問については十分な対応をしている。」「14. 生徒には単に記憶するのではなく、理解するように考えさせている。」の5項目については肯定的評価が85%を超える結果となった。

一方で、「9. 授業の中で生徒一人ひとりが活躍できる場を設けている。」「13. 生徒は予習・復習等の家庭学習にしっかりと取り組んでいる。」「18. 生徒は授業で学んだことから更に意欲・関心を深めている」の3項目については、肯定的評価が50%を下回った。

○保護者

本校では、教育活動の充実や一人ひとりに寄り添った生徒指導を行うため、学校と保護者が緊密な連携を取り、本校後援体制のより一層の強化を図ることを目的として、平成16年度から後援会組織と協力のうえ、各クラスの保護者から選出された学級委員を中心にクラス会を開催している。クラス会では、保護者同士の親睦を図ることを前提として、親睦会等で出てくる意見などを同委員が取りまとめ、これを学校と後援会組織で検討し、可能なものは前向きに対応していくという形式を取っている。これは、保護者が不安に思っていることや生徒指導上の問題点等の早期解決と学校のより良い方向性を見出すことに役立っている。

クラス会で出た意見や質問等については、学校と後援会組織が協働で作成するQ&A形式に取りまとめた報告書を全家庭に配付もしくは連絡網等で配信する予定にしている。

（例年意見や質問として挙げられる項目は以下のとおりである。）

- ・内部進学（併設大学）に関することについて
- ・資格取得に向けての補習をお願いしたい
- ・昨年度の進路状況を詳しく聞きたい
- ・授業参観日を設けてほしい
- ・配付文書に関することについて
- ・制成品や制服規定に関することについて
- ・新校舎の建設について 等

学校関係者評価委員会からの提言

2024年10月5日（土）15:00～16:00 本校会議室にて開催

1. 学校評価について

- （1）成績不良者に対する指導について、1学期末よりの2学期末の方が増加傾向にある。気の緩みが出始める時期とは思うが、引き続き家庭とも連携を取り、さらに指導を徹底する必要がある。
- （2）遅刻者数が年々増加傾向にあるため、生徒に対して根気強く指導をしてもらいたい。
- （3）携帯電話等の使用マナーについて、高校内でも指導はしてくださっていると思うが、今一度ルールについて周知する必要がある。

2. アンケート調査について

- （1）本校は国際交流に力を入れている印象だったが、国際交流についてのアンケート結果を見ると、積極的に取り組んでいると認識している生徒の割合が63.3%に留まっていることに意外性を感じた。今年度は複数のハワイの高校との交流の機会を設けたり、ホームステイの受け入れを実施しているので、次年度のアンケート結果に期待したい。
- （2）校舎やグラウンドの施設設備の充実度に関するアンケートや信頼できる友人関係の構築に関するアンケートでは、共に85%以上の生徒が満足していると回答している。このことから、生徒たちは学校生活に大変満足していると解釈できるので、とても安心した。
- （3）自己（授業）評価アンケートの中で、授業に向けての準備や生徒の理解を促すような発問や板書の工夫について、自己評価の低い教員が数名見受けられるが、それは個人の意識が高いが故にこのような評価になっているのか否かが気になるので、今後注視すべき点である。

3. その他

- （1）定期考査前に積極的に先生へ質問する姿勢や、教室や食堂など、自分で勉強がしやすい場所を見つけて勉学に取り組む姿勢が感心である。
- （2）先生方はいつでも質問があれば聞きに来てほしいというスタイルを生徒に伝えているため、とても手厚く有難い。
- （3）クラブ活動の試合日が定期考査前に開催される場合もあるため、勉学とクラブ活動の両立が難しいと感じるときもあるようだ。
- （4）強化クラブではないクラブ内では、やる気のある生徒とそうでない生徒に温度差があり、ジレンマを抱えている生徒もいるようだ。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学習指導について	(1) 始業時間までに授業準備を完了させる。	(1) ア 各教員が始業チャイム前には教室に入室する。 イ 生徒に対し、始業チャイムまでに席につき、授業準備をするよう指導する。 ウ 授業の重要性や時間を守る大切さなどを説明指導する。	(1) ア 教員が、始業チャイム前に教室に入室できていたか。 イ 生徒は始業チャイムまでに着席し、教科書等必要な教材を準備できていたか。 ウ 教員の自己(授業)評価アンケートの質問 20「目標やねらいを明確にするなど、十分な計画性を持って授業を行っている。」の肯定的評価が70%以上。	(1) [○] ア 概ね教員は始業チャイム時には入室できていたが、全教員が始業までに入室できるよう引き続き努力する。 イ 生徒達は、概ね始業までに着席できていたが、必要な教材の準備ができていない生徒が若干いた。 ウ 83.9%
	(2) 主体的な学びに取り組めるよう促す。	(2) ア すべての生徒が、すべての授業に前向きに取り組む姿勢を養う。 イ AL、探究学習等を取り入れ、授業内容を充実させる。	(2) ア 教員の自己(授業)評価アンケートの質問 12「生徒は真剣な態度で授業に集中している。」の肯定的評価が70%以上。 イ 教員の自己(授業)評価アンケートの質問 9「授業の中で生徒一人ひとりが活躍できる場を設けている。」の肯定的評価が70%以上。	(2) [△] ア 61.7% 授業中における携帯電話や iPad の無断使用が散見され、改善が必要である。 イ 49.4% 吹田メシアターを活用し、発表の場を設定した。クエストの全国大会優秀賞を受賞するなど、成果も見られている。
	(3) 基礎学力の定着と向上を目指す。	(3) ア ICT教材の導入で、学習習慣をつける。 イ 宿題を定期的に出して、家庭学習時間を増やす。 ウ 苦手単元などを振り返り、取り組ませる。	(3) ア ICT教材を有効に活用できているか。 イ 教員の自己(授業)評価アンケートの質問 13「生徒は、予習・復習等の家庭学習にしっかりと取り組んでいる。」の肯定的評価が70%以上。 ウ 教員の自己(授業)評価アンケートの質問 7「小テスト等を適宜行い、生徒の理解度や到達度の把握に努めている。」の肯定的評価が70%以上。	(3) [×] ア 生徒一人ひとりに iPad を貸与しているが、デジタル教材の導入が未だに不十分であり、今後の改善が必要である。 イ 19.8% スタディサプリの活用について、改めて見直す必要がある。 ウ 58.0% 職員室内のフリースペースで自習をする生徒が増えてきたものの、生徒の理解度が低いと思われる単元について、理解を深めるための方策を検討する必要がある。
	(4) 成績不良者、低学力者などに対する指導を徹底する。	(4) ア 各教科担当者が、成績不良者を出さないという姿勢で指導する。 イ 該当生徒には積極的に声をかけ、理解度を把握し、丁寧な指導を心がける。	(4) 各学期の欠点者の人数が減少したか。	(4) [×] ア 成績不良者と保護者に進級・卒業に関する説明会を、1・2 学期末に開催し、学習意欲の喚起を行ったものの、1 学期末に比べ、2 学期末の成績不良者は増加した。 [生徒総数 1522 名] 1 学期末：173 名 (11.4%) 2 学期末：246 名 (16.2%) +73 名 ア イ 放課後の定期的な強制補習の検討等が必要である。

<p>(1) 遅刻者を減少させる。</p> <p>(2) 携帯電話の使用マナーの向上に努める。</p> <p>(3) 処分者の減少に努める。</p> <p>(4) 登下校のマナー指導に努める。</p>	<p>(1) 遅刻者に対しては、遅刻理由を丁寧に聞き取り、生徒本人に改善策などを考えさせ、繰り返しの遅刻防止に努める。 また、通学路に教員が立ち、時間意識を持たせる。</p> <p>(2) 校内放送や教員による校舎巡回により、注意喚起を頻繁に行う。</p> <p>(3) 特にSNS関係の処分者を減少させるため、情報管理室と協力し、生徒たちのモラル向上に努める。</p> <p>(4) 登校時の駅から学校及び自転車通学路に教員を配置し、挨拶とともに広がって歩く生徒などに対し指導を行う。</p>	<p>(1) 過去5年分の各学年の遅刻者数と比較し減少したか。</p> <p>(2) 携帯電話関係の処分者数が過去と比較し減少したか。</p> <p>(3) 前年度の処分者件数と比較し減少したか。</p> <p>(4) 近隣住民の方からの苦情が減少したか。</p>	<p>(1) [×] 例年遅刻者は、学年が上がるにつれて増える傾向があり、全学年で増加した。目標を達成するためには家庭との連絡を密に取りながら、生徒に対して根気強く指導することが必要である。 なお、増加要因としては、生徒数の増加や電車遅延の増加も一因として考えられる。</p> <p>令和5年度 10,022名 (6.6%) 令和4年度 9,377名 (6.7%) 令和3年度 6,649名 (4.7%) 令和2年度 5,654名 (4.1%) 令和元年度 5,810名 (4.6%) ※()内の%は、生徒総数に対する比率を表す。</p> <p>(2) [×] 令和元年度と比較すると減少しているが、令和2年度以降は増加傾向がみられる。改めて、携帯電話・ipadの使用マナーとルールについて周知する必要がある。</p> <p>令和5年度 56件 (3.3%) 令和4年度 53件 (3.5%) 令和3年度 25件 (2.1%) 令和2年度 17件 (1.2%) 令和元年度 119件 (7.2%) ※()内の%は、生徒総数に対する比率を表す。</p> <p>(3) [×] 令和4年度102件 → 令和5年度106件</p> <p>106件の処分者の内、携帯電話・ipadの無断使用に関する処分件数が66件と半数以上を占めている。授業の開始・終了の節目の明確化や自習の際の取扱い等、教員側も意識改革を行うことで、処分者の減少に努める。</p> <p>(4) [○] 通学路に毎日教員が立つことにより、登下校時のマナーについての苦情は減少している。引き続きマナー指導等の注意喚起を行っていく。</p>
--	---	--	---

<p>(1) 基礎学力を向上させる。</p> <p>(2) 高大接続を充実させる。</p> <p>(3) キャリア教育の推進・充実を目指す。</p>	<p>(1) 生徒自身が自主的に目標を持って学習する。</p> <p>(2) ア 2・3学年 希望者及び内部進学予定者に対して、併設大学の講義を特別科目等履修生として受講させる。 ※これは大学生に交じり併設大学の講義を受けるものであり、単位が認定された場合、併設大学進学後に卒業所要単位数に計上することができる。</p> <p>イ 3学年 総合学習において実施される、「ソーシャルチェンジ」のプレゼン発表を通じて、社会貢献とは何かを考えさせ、自らの進路を模索する。それとリンクし、併設大学への内部推薦によってどのように自分が社会と接続できるのか、また、他の進路とも比較し、自己実現に向けてどう進むべきかを考えさせる。</p> <p>(3) ア ホームルームや総合の授業において、大学・専門学校の広報担当者による進路ガイダンスを各学年の状況に応じて実施し、外部講師による現在の大学・専門学校・高卒就職に関する現況の分析と解説を実施。その上で併設大学との高大7年一貫教育の意義も理解する。</p> <p>第1学年 将来の就職を考える (自分と社会との接続を考察)</p> <p>第2学年 学部・学科の情報とその特性を知る</p> <p>第3学年 各大学の特色及び入試形態を知る</p> <p>イ 手作り教材等を通じて、進路決定と将来の目標や働くことの意義、社会貢献とは何かを理解させ、自己実現に向けての学習計画を立てる。</p>	<p>(1) 教員の自己(授業)評価アンケートの質問15「授業の中で学習内容と進路との関連に気づかせようと努力している。」の肯定的評価が70%以上。</p> <p>(2) ア 受講者の単位修得率が良かったか。</p> <p>イ 内部進学率が上昇したか。</p> <p>(3) ア イ 教員の自己(授業)評価アンケートの質問17「生徒は年次に応じた進路意識をもって学習に取り組んでいる。」の肯定的評価が70%以上。</p>	<p>(1) [△] 67.9% 生徒に対し、学習内容が進路とどのように関連しているかを意識づけることにより、目標をもって学習することができるようになった。しかし、まだまだ進路に対する認識があまい生徒も多く、より意識を高めていく必要がある。</p> <p>(2) [△] ア ※科目等履修生の単位修得率 前期 受講者 0名 後期 受講者 53名 合格者 21名 単位修得率 39.6%</p> <p>イ ※併設大学進学者数と進学率 令和5年度 168名 (38.2%) 令和4年度 173名 (36.4%) 令和3年度 200名 (42.9%)</p> <p>(3) [△] 55.6% 進路に対する姿勢や考え方は前向きになったが、目標には届いていないため、今後、さらにイベント等を企画することで、より一層キャリア教育を充実させていく。次年度、内部進学決定者には2学期から大学エクステンションセンターでの資格講座の受講を開始する予定にしている。</p>
--	--	--	--

<p>4 人権教育について</p>	<p>(1) 各学年別に学外講師を招き、講演会を実施する。</p> <p>(2) 全校生徒に人権に関連した映画鑑賞を実施する。</p>	<p>(1) ア 1学年については、高校生になり携帯やネットでの友人関係の構築がはじまることから、インターネットやSNSに関する講演を行い、講演後にはアンケートを実施する。</p> <p>イ 2・3学年については生徒の成長に合った課題として、自分を大切にすること、他人を大切にすることの必要性を考えさせることを目的とした講演を行い、講演後にはアンケートを実施する。</p> <p>(2) 映画鑑賞実施後には感想文やアンケートを実施することで、内容が定着し生徒の印象に残るように努める。</p>	<p>(1) 各学年の課題に応じた適切な講演者を選定し、講演会を実施したか。</p> <p>(2) 人権に関する映画鑑賞の実施と実施後の感想が好評であったかどうか。</p>	<p>(1) [○] ア 1学年 開催日：2023年5月27日(土) 内 容：「情報リテラシー出前授業」 講 師：粟津千草氏(株式会社ジェイコムウエスト)</p> <p>イ 2学年 開催日：2023年6月17日(土) 内 容：「互いのところとからだを尊重しよう」(デートDV防止対策) 講 師：伊田広行氏(立命館大学 非常勤講師)</p> <p>ウ 3学年 開催日：2023年9月9日(土) 内 容：「性とセクシュアリティについて知ろう」 講 師：川西寿美子氏(NPO アカデミックハラスメントをなくすネットワーク NAAH 理事)</p> <p>本校でも携帯電話(SNS等)などの間違った使用による生活指導の案件が増加しており、今後も1学年時にしっかり指導を行う。 2・3学年においては、今後は講演以外でも各種資料を配付し、生徒の自覚を促す。</p> <p>(2) [○] 題目：レインツリーの森 実施日： 1年生：2023年11月9日(木) 2年生：2023年11月1日(水) 3年生：2023年11月13日(月) 鑑賞態度も良く、鑑賞後のLHRで全員に感想文を書かせ、その内容も概ね好評であった。</p>
-----------------------	---	--	--	---

5 保健について	<p>(1)生徒の適切な保健室利用の管理をする。</p> <p>(2)「保健だより」の定期発行と掲示等をする。</p> <p>(3)感染症予防対策の実施をする。</p>	<p>(1) 無用な来室者を減少させるとともに、保健室本来の病気やケガの生徒に対する対応を行う。 ア 生徒が授業中、保健室を利用する際は「保健室利用許可証」を持って来室させ、許可証を持参していない生徒は教室に戻させる。 イ 保健室の利用について原則1日1時間を徹底する。</p> <p>(2) 「保健だより」のHP掲載や教室掲示を通して、生徒に対する保健指導や日常生活、健康上の注意喚起を行う。</p> <p>(3) ア 「保健だより」による感染症予防の啓発を行う。 イ 校舎内複数箇所へのアルコール消毒液の設置等を通じ、感染症予防の意識向上に努める。</p>	<p>(1) 無用な来室者の減少と、病気やケガの生徒への対応に注力できたか。</p> <p>(2) 「保健だより」を定期的に発行・掲示できたか。</p> <p>(3) 感染症予防対策を実施することで、生徒の意識や行動の変化が見られたか。</p>	<p>(1) [○] 授業中の利用については、許可証の発行が必要なことや授業担当者の指導により、些細な理由で保健室を利用する生徒が減少した。日本学校保健会の「保健室利用状況に関する調査報告書（令和6年発行）」によると、高校生の1日平均保健室利用者数が全国では14.2名であるのに対し、本校は13.0名とやや下回っており、保健室の健全な利用ができていると考えられる。 引き続き利用方法の徹底することにより保健室を健全に利用できるよう努めていく。 令和5年度利用者数 2,589名 登校日数 199日</p> <p>(2) [○] 本年度もほぼ毎月のペースで発行することができ、HP掲載や教室掲示等で視覚的に生徒に働きかけることができた。次年度も継続して発行し、生徒たちの健康・生活面のサポートに努める。</p> <p>(3) [○] 「保健だより」に新型コロナウイルスをはじめとする感染症への予防策を掲載し、感染症予防の啓発を行うことができた。 コロナ禍以降、生徒がアルコール消毒を行っている姿が通常となり、感染予防への意識向上が図れていると考えられるが、今後も更なる感染症流行に備え、予防策を実行できるよう努めていく必要がある。</p>
-------------	--	--	--	--